

2018年7月31日

株式会社衛星ネットワーク  
スカパーJSAT株式会社

## 米国宇宙ベンチャーHawkEye<sup>360</sup>社と販売代理店契約を締結 世界初となる商用電波観測衛星を用いた 陸海空の地理空間情報提供サービスに参入

スカパーJSAT株式会社(本社:東京都港区、代表取締役 執行役員社長:高田 真治、以下スカパーJSAT)の子会社である株式会社衛星ネットワーク(本社:東京都港区、代表取締役社長:松本 崇良、以下SNET)は、米国宇宙ベンチャーのHawkEye<sup>360</sup>社(本社:米国バージニア州、CEO:John Serafini、以下ホークアイ社)と販売代理店契約(一部官公庁向け独占販売権を取得)を締結し、世界初の商用電波観測衛星を用いた地理空間情報提供サービスに参入することをお知らせします。

本サービスでは、ホークアイ社の低軌道小型電波観測衛星により電波発射体(観測対象物)から発射される電波を3機一組の衛星群(クラスター)で捉え、(1)対象物の位置特定(2)電波データ解析およびAIによる対象物の特定を行います。船舶、航空機、トランシーバー等はそれぞれ固有の電波を出しており、例えば船舶からはレーダー、無線通信、船舶電話等の電波を発信しています。観測対象物が発信する個々の電波を捕捉し、膨大な電波パターンをAIが学習することにより、観測対象物の識別をあたかも指紋のように行えるようになります。また、本サービスに使用する電波観測衛星は、観測対象物のサイズや材質、昼夜の別、天候に依存せずに低周波から高周波までの多様な無線信号の検出が可能のため、観測対象物の位置情報に加え、船名や飛行機名の特定、異常事態の兆候把握ができるようになりますと期待されており、主に安全保障分野や官公庁、物流会社からの需要が見込まれます。



現在は、通信や放送、地球観測（衛星写真）などの衛星サービスが多くの民間事業者により提供されていますが、今まで一部の国の政府系衛星でしか提供されていなかった全世界の地理空間情報提供サービスを、本電波観測衛星により、SNET が世界で初めて民間事業者として提供します。

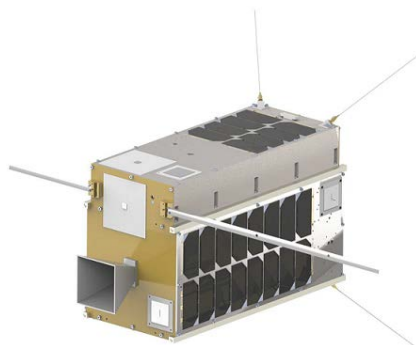
今後、2018 年秋に本サービスに使用する最初のクラスターを米国の SpaceX 社のロケットで打ち上げ、2019 年からはデモ・サービスの提供を開始し、2020 年までには約 10 クラスター体制でサービスを展開する計画となっています。

SNET は、スカパーJSAT グループにおけるネットワーク&IT のビジネスソリューション・プロバイダーとして、官公庁・法人・放送局を初めとするお客様に、防災ソリューションや映像伝送サービスなど提供しております。今回の地理空間情報提供サービスを含め、安全保障、災害危機管理、インフラ保守・点検、農業など、多様な分野において、更に事業展開を進めてまいります。

以上

(参考資料)

**(1) 低軌道小型電波観測衛星**



サイズ	30cm×30cm×40cm
重量	約 20kg
飛行高度	575 km
観測周波数	70MHz～15GHz

**(2) HawkEye<sup>360</sup> (ホークアイ スリー・シックスティ) 社概要**

2015年に設立された米国バージニア州に拠点を持つ宇宙ベンチャー企業。世界初となる商用低軌道超小型電波観測衛星群を用いた電波監視、電波データの収集や解析による地理空間情報サービスを提供し、世界中の政府機関および民間企業向けに、安全保障関連や物流管理分野における利用が期待されています。



©HawkEye<sup>360</sup>